夕姫' S Secret

ライラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夕姫'S Secret

【Nコード】

N1438Y

【作者名】

ライラ

【あらすじ】

新米ウェディングプランナーの水無月夕姫。いつも黒っぽい地味なスーツを着て、編みこまれた長い髪を背中に流し、化粧も控えめで、卵型黒淵めがねをかけている。その姿は地味としか言いようがない。それでいてずば抜けたセンスを満ち合わせたスペシャリスト。彼女が担当したカップルは必ず幸せになれるというジンクスまでできたという。そして、その私生活は謎とされているが、それは単に面倒ごとが嫌いなために公開してないだけである。何しろ、夕姫は日本一厄介な男を夫に持つのだから。単純な平和と充実したワ

ークライフを楽しみたい。でも、そんなにすんなり行かなくて・・・
仕事に愛に友情に家族に振り回される夕姫の物語。

登場人物

登場人物

水無月ミレーナ・夕姫：22歳。日本人とイタリア系ブラジル人のハーフ。会社では地味に装っているが実は隠れ美人。新米ウエディングプランナーだが入社早々実力を発揮しているためよく同僚や先輩たちに嫉妬の的となっている。17歳で一流ホテル業界望月コーポレーションの御曹司、響に惚れられ、情熱溢れる猛烈なプロポーズ攻撃を呆れるほど受けた末に結婚した。社交の場には99%の確立で出ない。プライベートはすべて秘密主義。

水無月響きょう：32歳。夕姫の夫。一流ホテル業界水無月コーポレーションの御曹司で専務を務める水無月家三男。数々の伝説を残し、ゴシップ雑誌でも散々騒がれた元、日本一プレボーイと言われた男。今は夕姫一筋の愛妻家。嘘か真か定かではない噂を星の数ほど持つ上に、結婚を公にしないせいか、いまだに独身と信じられている。白百合静：32歳。夕姫の勤めるレ・リス・ウエディングCIAの社長。乙女ちつくな名前に反してめがねの似合う男らしい魅力のそろうた好青年の実業家。響の従兄弟。

水沢和也：32歳。同じレ・リス・ウエディングCIAに勤める夕姫の上司で実は従兄弟。爽やかで笑顔が魅力的な好青年。社長の静と並ぶ人気者で、その静とは大学からの付き合い。いとこのこの夕姫のことは妹のように接する。

水沢玲耶：24歳。和也の妹。夕姫とは従姉妹で親友の中。売れっ子の美容師さんで主にウエディングヘアメイクが専門。レ・リス・ウエディングCIAの美容室に所属。

刈谷美佐子：25歳。夕姫の先輩プランナー。上司の和也が好きらしく、よく傍にいる夕姫に嫉妬の目を燃やしているが、仕事には抜

け目のない人。

白鳥まりや：22歳。夕姫の同僚。一見、大和撫子で柔らかい感じがするキュートガールだが、その本性は悪魔並み。自分を魅せることしか興味がない。夕姫が気に入らないらしく、数々の嫌がらせを計画する。

宇佐美葵：23歳。夕姫の1年先輩で、まりや同様たんに夕姫が気に入らないだけで、まりやと共に嫌がらせをする。ナイスバディーを武器に狙った男は逃がさない肉食系の美女。今の目的は静を落とし、玉の輿になること。

満井浅子：23歳。葵と同期の同僚。大手の建設業者の社長を父に持つ、お嬢様。父親のコネを通して静の会社に入った。結婚してるとはしらず、響との結婚を夢見ている。わがままでプライドが高く、社長以外には命令形を使い、社長の前にだけいい顔をする。仲は特別よくないが、葵やまりやとはよく一緒に夕姫の嫌がらせをする。

中津圭太：27歳。写真を専門とする・リス・ウエディングCIAの社員で普段は受付を担当。背が高く、綺麗な顔とモデルのような体つきが自慢。実はメガネをかけた地味な子がタイプらしく夕姫にさりげなくアプローチするが、いつも空振りで終わる。

加賀一誠：29歳。圭太の先輩。圭太と同様普段は会社の受付係だが、フラワーアレンジメントのスペシャリスト。日本人離れた堀の深い顔立ちに鮮やかな笑顔の持ち主だが、毒舌サドおよびナルシスト。なぜかよく夕姫に絡んでくる。

一条楓：56歳。ダンディーな魅力を持つとある大貿易商の海外営業部長を職に持つ夕姫の父。普段は穏やかだが家族の中で怒らせると一番怖い。

一条ニーナ・ボルサーニ：50歳。夕姫の母。美人で、陽気で、お祭り好きで世話好きなため町内のアイドル（人気者）。

一条ロレンソ・烈：30歳。一条家長男で夕姫の兄その1。職業は裁判官。黙っていればいい男のだが、ダイヤモンド並みの思考と強度なシスコンが災いし、ただ今独身進行中。

一条レオン・葎：28歳。一条家次男で夕姫の兄その2。職業は外科医。ワイルドでセクシーな魅力を持つプレイボーイ。夕姫と街を歩くとよく恋人同士に間違えられるらしい。

一条ミリアン・瑞希：26歳。一条家長女で夕姫の姉。職業はブティックを経営している。ボーイッシュでかっこいいお姉さまが売りだが、実は乙女ちつくな物が好きで、よくその趣味を夕姫に押し付ける。

その他のレ・リス・ウェディングCIAに勤める方々。（出てくるかどうか不明だが、もし必要になった場合出てくるキャラ。）

プランナー：中島小百合（30歳）／河上稔（29歳）／原田瑞恵（26歳）

受付：斎藤美香（24歳）／澤千佳子（28歳）

フォトグラファー：神崎洋介（34歳）／金城さやか（28歳）

グラフィック・デザイナー：エミリオ・翔・タンビーニ（27歳）／安斉輝（25歳）

その他の従業員：桂木一臣（27歳）／深海京香（26歳）／松原詩織（26歳）

朝、六時のバスルーム、シャワーの流れる音が響く。白い肌、キョツと引き締まった腰、お腹、足に対して豊かで瑞々しい乳房と少々大ぶりの桃を思わせる形の良いヒップ。スラーとした足はまるでモデルのよう。そんなナイスボディーを持つ女、水無月ミレーナ・夕姫は体の隅々を丁寧に洗っていく。そして、浴室を出ると、体を拭いて大きな大理石の洗面台まで移動し、ドライヤーで濡れた髪を乾かしていく。ちょうど乳房を覆う長さの黒いウェーブの髪を綺麗にブローセットすると今度はその髪を綺麗に編みこんでいった。それから、ナチュラルメイクを施し、最後にお気に入りの丸いパールの小さなピアスをつけると、浴室を出て寝室のクローゼットへ向かった。広いクローゼットはあらゆる種類の洋服がかけられ、靴やアクセサリーも一声に輝きを主張しあっているようだ。そんな中で、彼女はお気に入りブランドのランジェリーを身に着ける。今日は黒のパンティーに同じ色のコルセット。なぜ、ブラではなくコルセットなのか・・・夕姫は面倒ごとが嫌いだ。

その昔、中学のころからもうすでに現在のナイスバディー持っていたため、当然、面倒なことに散々巻き込まれていた。そして、その様子を見ていた母が提案したのはコルセット。さらしのように体系を目立たなくさせながらも胸を押しつぶすこともない代物。夕姫はそれくらいブラではなくコルセットを愛用するようになったのである。そして、下着を着け終わると、今度は肌色のストッキングをはき、真っ白なブラウスを着て、黒い膝丈のスカートをはいた。スカートのおそろいのブレザーと昨夜用意した黒いバツクを片手にクローゼットを出る。

そのとき、チラッとベッドのほうを見れば、自分の夫である大きな男が大の字であどけない寝顔を作り眠っている光景が見える。

「クス。」

夕姫はその寝顔に微笑むと寝室を出て、ダイニングキッチンへ向かった。バックとブレザーを近くのいすに置くとエプロンをつけてキッチンに立つ。台所はすべて夕姫の好きな、赤と黒で統一されている。コーヒーメーカーをセットし、手早く、冷蔵庫から卵2つとプチトマトを取り出すと、プチトマトは洗い、卵はボールで手早くとして、油の乗ったフライパンでオムレツを二つ作る。出来立てオムレツをお皿に乗せ、そこに洗い立てのプチトマトを飾った。あとはパンが焼ければ今日の朝食は出来上がり。次に、昨夜準備していたお弁当の具をレンジ温め、あらかじめ炊いてあったご飯をつめて、おひたしのほうれん草を開いたスペースに載せれば完成。時計を見れば、もう7時半。

自分用のお弁当と二人分の朝ごはんの準備が整うと、寝室に夫の様子を見に行く。彼の朝は10時の出勤なのでまだもう少し寝ていてもいいのだが、適当に起こしておかないと、下手したらそのまま寝続けて仕事をサボるのもしばしば。案の定、夫はまだ夢の中。夕姫はカーテンを一気に開き、つづいて窓も開ける。秋の気配を漂わせる風が部屋の中に入ってくる。そして、振り返れば、まぶしさに顔をしかめつつも毛布に包まって覚醒を拒否する夫の様子。そつと耳元でささやけば、どこから出したのか、にゅつと長い腕が伸び、夕姫を捕らえるて引きずり込もうとした瞬間、

パチン

「いっ……」

夕姫の指が夫のおでこをはじいたのだ。さすがの彼もいい加減おきる。これは毎度のパターン。新婚当時はよくそのままベッドに引きずりこまれ、学校を何度か遅刻しそうになったが、あれから早5年、いい加減、その手には引っ掛からなくなった逞しい夕姫の姿がそこにあつた。

「朝ごはんできてるから、はやくね。」

そう、言い残し、部屋を出て行くと、しぶしぶ男がベッドから降りた。この男の名は水無月響。彼の家はホテル業界望月コーポレー

シヨンを経営する家柄。つまり、誰もがあこがれるセレブな御曹司なのだ。そう、夕姫はわずか17歳でシンデレラのごとく玉の輿を見事に果たしのだが、本人は己の平和を護るため一切公開していない。何せ、このことが公になれば重大なスキャンダルとなり面倒が一気に増えると予想されるからだ。それもそのはず、この男は誰もが認める魅力溢れるイケメンに付きかつて日本一のプレイボーイと呼ばれるほどのスキャンダルの中心人物なのだから。その上に家柄とできる男代表としてもマスコミからも騒がれているのだから余計だ。彼もまた自分からプライベート公開することもないため、結婚していることを知らない人が殆どなのが不幸中の幸いといったところだろう。

響は熱がりなである。だから、いつも季節関係なくボクサーパンツ一枚で寝るのだ。よく引き締まった男らしい体はこのこの魅力のひとつといえよう。彼はそのまま、浴室に入ると夕姫と同様、シャワーを浴びて、腰にタオルを巻き、日髭をそり、髪をセットし、お気に入りのコロンを振り掛けると、クローゼットに向かって、光沢のあるブランド物の紺の高級スーツに身を包むと寝室を出て、ダイニングキッチンへ向かった。食卓にはもうすでにできている朝ごはんが乗っている。夕姫はもうすでに食べ終わっており、自分の分の食器を洗っている。食卓について、朝ごはんを食べ始めるころには、洗い物を終えた夕姫がエプロンはずす。それから、そっと近づいてきて、夫の頬にちゅっと可愛らしい音を立てて挨拶のキスする。

「行ってくるわね。食べ終わった食器はちゃんと、シンクにお水を浸しておくの忘れないでね。」

「ああ。解ってるよ、マイ・スウィート・ハニー。今日は取引先のパーティーに直接行くから夕飯はいらないし、遅くなる。」

「わかったわ。じゃあね、チャオ。」

夕姫はブレザーを着て、バックを持つと、優雅な足取りで玄関へ向かう。途中、飾りでかけられた鏡を見れば、ふと大事な物を忘れ

ているのに気づく。バックからケースに入った卵型の黒淵伊達メガネを取り出すと手早くかけて、地味な女が完成した。ふふつと微笑むと、メガネケースをしまい靴を履き、扉に手をかける。そして、今日もまた新しい一日が始まるための一歩を踏み出すのだ。

1話・夕姫の日常 01（後書き）

初めての夫婦物です。時に涙アリ笑いあり、ほのぼののだけど時々シリアス時々コメディーみたいな感じで進めて生きたいです。夕姫とその夫や二人を支える家族や友人たちとの人間関係も重視しています。気長にお付き合いくださるとうれしいです。

通勤手段は自分で運転する車、日本で目にするのは珍しいであろう小型の黒い外車、フィアットのステイロ。彼女が1時間近く早く出るのは渋滞を避けるため。自分にしてみれば、移動はバスか地下鉄で十分なのだが、あの過保護な夫が嫌がり、高校時代は高級車の運転手付きの車で通っていた。基本、穏やかに暮らしたい彼女は大学に入りしだい、夫と長い交渉をした結果、自分で車を運転するなという結論になった。そんなわけで、内心面倒くさいと思いつつも夕姫はすいすいと外車を乗りこなしながら、会社の駐車場に入っていく。そして、華麗にその車を駐車し、車を降りるとエレベーターホールへ向かう。

この会社の名はレ・リス・ウェディング・コーポレーションという。水無月に並ぶ大企業白百合グループの御曹司が経営している会社だ。そして、この会社は広い地下駐車場があり、そこからは五階建てのビルになっている。一階は受付とパーティー会場。二階は高級ブティックにもなっているドレス、着物と美容室のコーナー。ここはレンタルからオーダーメイドまで幅広く扱っており、プロのデザイナ―やスタイリストがスタンバイ。ずらりと並んだラックにかけられている様々なドレスと着物たち。その横には試着室。その反対側にはビューティーサロンが堂々と構えられている。三階はカフェ・レストランに洋菓子店がそろっており三ツ星シェフ&パティシエが常にスタンバイ。結婚式があった際、ここで料理やケーキ類が作られる。四階はプランナーと客が打ち合わせをしたり、社員同士のミーティングを行う会議室が並んでいる。五階は印刷室、事務室や社長室などがある。そして、この会社の隣にはさらに高級ジュエリー店とフラワーショップに挟まれている。つまりだ、お客さんですべて必要なものはここにそろっている珍しい会社なのである。しかも、

ここに構えられている店たちはみなすべて社長か白百合グループが経営しているのだった。

夕姫を乗せたエレベーターがポーンと5階で止まった。現在、8時15分。まだ、誰も来ていないようだ。手持ちのバツクはデスクの中にしまい、必要な書類を出していく。それから、夕姫は簡単にさっさと掃除を済ませ、コーヒーを淹れに行った。ちょうど、コーヒーが出来上がるころ、自分の直上司で、いともある水沢和也やが入社してくる。夕姫はプライベートは秘密主義なので彼がいとこであることはこの社長と下のサロンで働く彼の妹の玲耶以外は誰も知らないのだった。何せ、この会社はイケメン・美女がそろっていることでも有名で、わざと地味を装っている夕姫以外はみんな自信溢れる人物ばかりそろっているのだ。当然、この和也もこの社長と並ぶ人気者なのであった。

「おはよう、ミミ。」

「おはようございます。はい、朝のコーヒー。ミルク入れますか？」

「ああ、ありがとう。」

和也は周りに誰もいないときはプライベートモードで話してくる。彼の呼ぶ愛嬌はこの会社では使っていない『ミレーナ』『ミ』を取ったものだ。元々は母親が呼んでいた為、家族、親戚内では『ミミ』と呼ばれているのだった。ちなみに夫は『スイートハニー』か『ミレちゃん』と呼ぶ。夕姫はもうすでにプロモードでさりげなくミルクを入れたコーヒーカップを和也に差し出した。そして、ちょうど和也がそれを受け取ったとき、奇妙な着メロが流れた。それはスターウォーズの タン・タン・タン・タン・タタ・タイン・タタ・タイン・タン・タン・タン である。夕姫は少しだけ顔をしかめると、携帯を取り出し、受けた。この瞬間から、さっきまでのプロモードが

一揆に崩る。実はこれもいつものことだったりする。

「どうしたの？・・・は？書類？知らないわ。いつも、持ち歩く鞆は？え？鞆がない？そんなわけないでしょう、昨日、寝る前、ソファーに置きっぱなしの鞆を見たけど・・・そう、あったのね。それじゃあね。(ピツ)まったく。」

「えつと、響さん？」

「そう。今日は会議で使う書類がないって・・・もう、毎回毎回、相変わらず、お騒がせな人なんだから。」

「それより、何時も気になってたんだけど、何でスターウォーズなんだ？」

「は？」

「だから・・・着メロ。」

「ああ、これは夫と烈ちゃん限定の着メロ。パトカーのサイレンにするよりもましだと思わない？」

ちなみに、烈ちゃんとは夕姫の一番上の兄、一条烈のこと。彼はダイヤモンド並みの思考と強度なシスコンが災いし、人から、特に女性から引かれていくせいか未だに独身。しかも、本人はそれを気にしていないのだから、ある意味、心配である。そして、性格は正反対であるはずの兄と夫は自分に対する過保護心はどちらも同じくらい厄介で、不思議なほど馬が合うらしく、名コンビを組んでいるほどなのである。

「ああ、なるほど。たしかにあの二人のお前に対する過保護心は以上だ・・・それでか？わかる気がする・・・」

和也もよく知っている男たちの顔を浮かべて納得したようだ。

「そういうこと。はい、立ち話は終わり。もうすぐみんな来ちゃ

うから、いつもどおりにね、和君。」
「おう。」

そして、夕姫は携帯をマナーモードに設定し、デスクに向かうと、まずはスケジュールチェックをする。今日は客が入っていないが、冬のウエディング広告の企画を任されているため、今日は社長と一緒にモデルやスタッフの方たちとミーティングだ。場所は社内ではなく、隣の白百合グループが経営する普段はレストランとして営業してるパーティー会場。ちょうど教会が向かえ側にあつて移動に便利だから。会議は午後で、朝はデスクワークになる。優希はデスクトップを立ち上げると、早々に今日の企画の見直しを始めた。

がやがやと社員たちがいつせいに入社してきた。これもいつもの光景。そして、この会社は特に決まった席はない。だから、早い者勝ちで席を陣取る。夕姫の場合は99%の確立で1番なので、すでに席は陣とっているのだった。幸い、ここのデスクの並び方はばらばらで、大きさも様々。クリアタイプ、ヴィーティを活性化させるためにおいてある色とりどりのクッションや靴の形をした安楽いすなど変わったものが色々置いてあり、夕姫がその中でもよく選ぶ席は奥の一番端。面倒ごとを避けるには邪魔の入らない良い席だからである。

それでも、時には一番不利な席になることもある。なぜなら、資料倉庫が近いため、よく嫌がらせでわざとコケた振りして、分厚いフイルを彼女に向かって落としたり、時にはダンボールごと突っ込んで来たこともあり。その時はあまりにも急な体重に受け止めきれず、後ろへ椅子ごと転倒し、危うく頭をぶつけるところだったが、日ごろのダンスで鍛えた柔軟な体が幸い、頭だけはガードしたものの、肩・腕を痛めてしまい、仕事にも支障が出た。そのとき、もちろん、転ばせた本人は事故だと主張。証拠もないため、結局、社長の説教だけで終わり、ついでにその社長には謝罪したのに対し、夕

姫には謝罪の『しゃ』の字も言わなかった。もちろん、その後、腕を包帯に巻かれた夕姫姿を見た瞬間、夕姫LOVE+過保護な夫とシスコ兄は最愛の妻・妹を怪我させた人物に対しぶっちぎれ、『生きることさえ嫌になるくらいどん底の人生を味わせてやる!』と見事にハモリ、暴走寸前だった。

そこをなんとか静や和也の力を借りて、なんとかフォローし、抑えたのだった。おかげでその人物は今でも職を失うこともなく、毎日飽きずに嫌がらせに精を出していられるのも夕姫を含む三人のおかげだとはまったく想像すらしていないのだろう。そのぐらい、日によつてはラッキーにも不幸にもなる席なのであったが、他の席に移つるともつと面倒なことになるので、もうすでにあきらめているのが心情だった。

そんな夕姫が求めるものはひとつ、平和なワークライフを送ることのみなのである。

2話・金曜日の夜 01(前書き)

この2話では夕姫ちゃん視点で送ります。

待ちに待った金曜日とはにかく、一週間分の仕事を片付け、心置きなくそのアフターファイブを遅れるように心がけている。とくに、今週末は担当しているカップルの結婚式がなく、また異常な過保護心を持つやかましい夫も今週いっぱい出張でいない。彼が帰ってくるのは日曜日の夜。だから、久しぶりに自由な時間を満喫できる。特に今日は、久しぶりに女子会を計画している。だから、なおさら、仕事に打ち込むのだ。

それに、ほかの社員も金曜日はアフターファイブに上げられるように必死なので、結構平和な日でもある。さすがの取り巻きたちも、気持ちは同じらしく結構まじめに仕事をしていて、あまり絡んでこない。何故なら、この会社の残業手当が出るのは緊急事態の残業のみであるため、自分の不始末で作業が遅れた場合はひたすら不利な残業が増えるだけなのである。とくに、この手の仕事は金曜日というのは締め切りの場合が多く不利な残業は誰もが避けたいはずだ。

そんなわけで、金曜日は不気味なほど仕事がかどるのだった。

そして、アフターファイブ。私はバックを持って、駐車場に向かった。車に乗り込んで、まず携帯のチェックをする。着信が2通とメールが3通。まず、着信記録を開くと、どの着信夫からだった。そして、次に、メールを開くと、最初のひとつはやっぱり夫から。それも、内容はこうだ。

『今日も君がいなくて寂しいよ。君はどうしてる？変な男に絡まれてないか？今日は金曜日だ。今日はどこに出かける？誰と行くんだ？迎えは大丈夫か？酒を飲むなら絶対にうちの運転手を呼ぶんだよ。』

絶対に電車やバスで帰るなんてとんでもないからね！今から会議で電話には出れないが、今日のこととはちゃんと細かくメールで教えてくれよ。それじゃあ、僕のスイートハニー。愛してるよ！（ハートマーク×2）君を誰よりも愛するダーリンより』

と、出てきた。相変わらずだ。正直、面倒くさい。でも、これやらないと後で煩いから今のうちにメールを打っておく。でない、忘れそうだしね。まあ、返信を終えて、次のメールを見た。それは夫のように愛は語らないが同じような内容の文章をよこしたシスコン兄の烈だった。これも、うんざりするが、しょうがない。こそりつと、夫と同じ文章を送った。だって、二度も同じ内容を書かなきゃいけないって面倒じゃない。毎度、同じタイピングで、この二人は同じような内容のメールを送ってくるのだから、もうすでに予想していたのだ。だから、あらかじめどちらにも送れる文章にしたのだ。そして、最後は玲耶だ。内容はいつもの店を7時半に予約したとのことだった。私は『OK』の返事を送信するとやっとエンジンをかけて、車を発進させた。

一旦、家に帰って、鞆を部屋に置いて、スーツをハンガーにかけ、浴室に入った。編みこんだ三つ編みを解いて、パールのピアスを洗面所の脇においてあるアクセサリー入れの小皿において、残りの着ていた服を洗濯籠に入れながらひとつずつぬいだ。そのあと、バスタオルを巻いて、湯船にお湯を張る。お湯がたまるのを待っている間に髪をバレッタで纏め上げてからメイクを落とす。メイクが完全に落ちたところでちょうどお湯がたまるのでお気に入りの入浴剤を入れれば完璧。ゆつくりとバスタイムを楽しんでから、さつとシャワーをすると、またバスタオルを巻いて、浴室を出る。クローゼットに入って、これからきるものを決める。今日は下着はコルセットではなく線の見えない白のブラとショーツ。ガーターベルトとストッキングをはいた。メインの服はタートルネックの黒のカットソー

にマスタード色のフレアのロングのマーメイドスカートで、そのう
えに薄い栗色のカシミアポンチョを羽織、ショートブーツとバック
はポンチョに合わせた薄い栗色だ。髪はそのまま流す。そして、化
粧も普段よりも下品にならない程度に濃く、はつきりとさせる。ア
クセサリーはホワイトゴールドの大ぶりのリングと結婚指輪のみ。
これは夫との条件。金曜日の夜は自由にしていい代わりにアフター
ファイブから月曜の朝までは必ず指輪をはめることで許されたのだ。
結婚指輪はペアリングのオーソドックスなホワイトゴールドだ。デ
ザインはシンプルだがところどころ微妙な線が入っており、指輪の
厚さは5mmもある。裏にはラテン語で『夫婦の絆』と書かれてい
る。

支度が整うと、ちょうど、携帯がなった。相手は今日の女子会に参
加する友人の瑠璃からだった。

「もしもし。」

「あ、ミミちゃん、今大丈夫？」

「大丈夫よ。」

「実はね、今日少し遅れそうなの。兄が緊急出張にでちゃって、行
く予定だったパーティーに代行で行かなければならなかったの。
一時間もすれば抜けれるとは思うけど、食事には間に合わないから
二人だけで食べて。クラブ・ローズで落ち合いましょう。」

「わかったわ。じゃあ、あとでね。」

そして、電話を切ると、あらかじめ読んでおいた水無月家の車（運
転手つき）に乗って玲耶との待ち合わせ場所に向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1438y/>

夕姫 ' S Secret

2011年11月22日14時38分発行